

これが、裁判。

監督・脚本 周防正行



それでも ボクは やってない

加瀬 亮 瀬戸朝香 山本耕史 もたいまさこ 役所広司

田中哲司 光石 研 尾美としのり 小日向文世 高橋長英 / 大森南朋 鈴木蘭々 唯野未歩子 柳生みゆ 野間口 徹 山本浩司 正名僕蔵
益岡 徹 北見敏之 田山涼成 大谷亮介 石井洋祐 大和田伸也 / 田口浩正 徳井 優 清水美紗 本田博太郎 竹中直人

製作: 亀山千広 エグゼクティブプロデューサー: 梶井省志 企画: 清水賢治 / 島谷能成 / 小形雄二 プロデューサー: 関口大輔 / 佐々木芳野 / 堀川慎太郎 撮影: 栢野直樹 照明: 長田達也
美術: 部谷京子 装飾: 鈴木高正 録音: 阿部 茂 整音: 郎 弘道 / 米山 靖 音楽: 周防義和 編集: 菊池純一 キャスティング: 吉川威史 助監督: 片島章三 製作担当: 毛利達也

製作 フジテレビジョン・アルタミラビクチャーズ・東宝 製作プロダクション アルタミラビクチャーズ 配給 東宝 ©2007 フジテレビジョン・アルタミラビクチャーズ・東宝

阪急阪神東宝グループ  サントラ盤: ポニーキャニオン  芸術文化振興基金

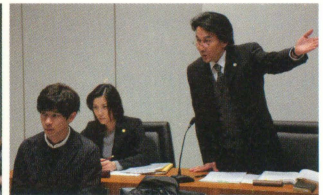
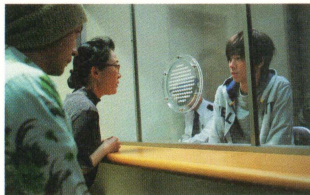
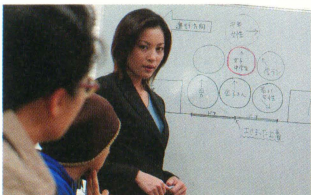
www.soreboku.jp

「Shall we ダンス？」周防正行監督が描く“ニッポンの裁判”。 それでもボクはやってない



本当に無実でも、 無罪になるとは限らない…ってホント？

『ファンシイダンス』(89)→“仏門修行”、『シコふんじやった。』(92)→“学生相撲”、そして『Shall we ダンス?』(96)→“ボールルームダンス”…と、これまで意外な切り口のエンターテインメント作品を発表してきた周防監督が11年ぶりの映画に選んだテーマは、“裁判”。司法改革の一環として、裁判員制度の導入が決まり(09年実施)、社会的にも裁判への関心が高まってきています。しかし本当の裁判がどのようなものなのか、あなたをご存知ですか？そして現在、深刻な社会問題となっている“痴漢冤罪事件”。この映画では、痴漢に間違えられたひとりの青年の裁判を通して、日本の刑事裁判制度の問題点をも明らかにしていきます。知ってるようで実は知らない“ニッポンの刑事裁判”…その、おそろべき現実とは!? 主人公の被告人役には「硫黄島からの手紙」など話題作への出演で注目を集める加瀬亮、その弁護に当たるクールビューティな新人弁護士役に瀬戸朝香、そして『Shall we ダンス?』でタッグを組んだ役所広司が主任弁護士役を演じます。さらに、もたいまさこ、山本耕史、ほか豪華で多彩な出演者たちが織り成す絶妙の演技にご期待ください。『それでもボクはやってない』、ただいまから開廷します。



就職活動中の金子徹平(加瀬 亮)は、会社面接へ向かう満員電車で痴漢に間違えられて、現行犯逮捕されてしまった。警察署での取調べで容疑を否認し無実を主張するが、担当刑事に自白を迫られ、留置場に勾留されてしまう。勾留生活の中で、孤独感と焦燥感に苛まれる徹平。さらに検察庁での担当検事取調べでも無実の主張は認められず、ついに徹平は起訴されてしまった。刑事事件で起訴された場合、裁判での有罪率は99.9%と言われている…。

徹平の弁護にあたるのはベテラン弁護士・荒川(役所広司)と新米弁護士・須藤(瀬戸朝香)。被害者と同じ女性として、痴漢事件の担当を嫌がる須藤。しかし荒川は、「痴漢冤罪事件には、日本の刑事裁判の問題点がはっきりとあらわれる」といい、須藤にはつばをかける。そして徹平の母・豊子(もたいまさこ)や友人・達雄(山本耕史)たちも、徹平の無罪判決を信じて動き始めた。周囲が見守るなか、ついに徹平の裁判が始まった…。

ユナイテッド・シネマ豊洲

映画案内ホットライン 03-6219-3000

URL <http://www.unitedcinemas.jp>